

令和 5 年 第 2 回

中野区国民健康保険運営協議会

会 議 録

令和 5 年 9 月 2 1 日 (木)

中野区国民健康保険運営協議会会議録

1 開催日時 令和5年9月21日 午後7時

2 開催場所 中野区役所9階 第11・12会議室

3 出席委員 (18名)

会 長	竹 原 厚三郎	委 員	渡 邊 仁
会長代理	小 原 道 子	委 員	宇 野 真 二
委 員	吉 成 武 男	委 員	櫻 井 栄 一
委 員	山 縣 美智子	委 員	西 原 英 志
委 員	戸 辺 眞	委 員	田 上 樹 里
委 員	大 浦 厚 子	委 員	小 川 達 也
委 員	石 田 恵美子	委 員	鈴 木 康 介
委 員	涌 井 久美子	委 員	飯 塚 美里男
委 員	佐 藤 清一郎		

4 欠席委員 (1名)

委 員 矢 島 和 行

5 関係者

区民部長 高 橋 昭 彦

区民部 保険医療課長 宮 脇 正 治

6 署名委員 涌 井 久美子委員 宇 野 真 二委員

7 議題 1 開会

(1) 区民部長あいさつ

(2) 諮問書の提出 中野区国民健康保険条例の一部改正について

(3) 第31期 初参加委員紹介

(4) 会議録署名委員の選出

2 議事

(1) 審議事項 「中野区国民健康保険条例の一部を改正する条例について」

資料1 産前産後期間の国民健康保険料の免除について

資料 2 諮問書(写)中野区国民健康保険条例の一部改正について
参考資料 令和 5 年度国保ガイド抜粋

3 閉会

宮脇保険医療課長

定刻 1 分前くらいですけれども、お集まりですので、中野区国民健康保険運営協議会を開催させていただきたいと思いますが、開会に先立ちまして、まず私初めてとなりますので、ご挨拶させていただきます。中野区の保険医療課長をしております、宮脇と申します。お宮の宮に月に力を三つ書いて、宮脇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まずですね、お配りした資料、お手元のほうにご用意させていただきましたが、こちらの確認をさせていただきたいと思います。今日、本当に暗い中ですね、遅くの時間にお集まりいただきましてありがとうございます。細かな字がちょっといろいろ書いてありまして、恐縮なのですが、どうぞお付き合いいただければと思います。

資料ですけれども、まず、令和 5 年第 2 回中野区国保運営協議会次第というものがございます。その他、資料 1、資料 2、それからイラストが描かれている参考資料がございます。こちらの 4 種類が束になっておいてあったかなと思います。それからその横に、今日委員の方々の第 3 1 期の名簿を置かせていただいております。合計 4 枚と名簿ということになっております。お手元に不足はございませんでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、会の進行につきまして、国保運営協議会の会長であります竹原会長にお任せし、進めてまいりたいと思います。

会長どうぞよろしくお願いいたします。

会長

皆さんこんばんは。9 月に入りましても、まだまだ暑い日が続いて、お忙しい中お集まりいただきまして大変ありがとうございます。着座をさせていただいてよろしいですかね。

それでは、令和 5 年第 2 回中野区国民健康保険運営協議会を開催いたします。本日の会議は過半数の出席を得ており、協議会規則第 6 条に定める定足数に達しておりますので、成立しております。

それでは早速、区長からのご挨拶並びに諮問をいただきたいと思います。本日区長は所用のため、出席できないということで、代理で区民部長が出席をしております。よろしくお願いいたします。

高橋区民部長

こんばんは、区民部長の高橋でございます。

本日はお忙しい中、中野区国民健康保険運営協議会ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。本来であれば区長のほうからご挨拶させていただき、諮問もさせていただくところでございますが、あいにく本日所用のため、出席することができませんでしたので、私の方で代理を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

国民健康保険でございますが、国民皆保険制度の中核を担う地域医療の確保や地域住民の健康の維持、推進に貢献している制度でございます。

しかしながら、現在加入者の高齢化それから所得水準の問題など、構造的な課題を抱えてござ

います。さらに、新型コロナウイルス感染症等による医療費の増加など、保険財政への影響等に対応することが求められてございまして、国民健康保険制度は現在非常に厳しい状況に置かれてございます。加入者にご負担いただきます保険料につきましても、先ほど申し上げた課題の影響によりまして、年々上昇傾向にございます。

一方で、子育て世帯の負担軽減のため令和4年度より、未就学児に係る均等割保険料の減額が開始となっております。今晚、さらなる子育て世帯の負担軽減のために、新たに来年の1月から産前産後期間の国民健康保険料の免除制度が開始となります。本日はその件について諮問させていただきたいと考えてございます。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

それでは諮問事項について、お手元の諮問書、お手元の資料2になるかと思いますが、簡単に申し上げたいと思います。

1番の諮問事項でございますが、中野区国民健康保険条例の一部を改正する条例についてでございます。次に2番、諮問内容でございますが、出産被保険者の保険料を減額する額を次のとおり定めるということで、それ以下に（1）から（6）まで減額する額の決定方法について記載してございます。次に3番、改正理由についてでございますが、出産被保険者の保険料の減額制度が開始となること。最後に4番、実施時期については令和6年の1月1日から、以上でございます。

それぞれの詳細な理由につきましては、後ほど事務局からご説明をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。以上でご挨拶と諮問とさせていただきます。引き続き区政へのご協力よろしくお願いいたします。それでは、諮問書をお渡ししたいと思います。

会長

ただいま、諮問書をお預かりいたしました。

では、早速議事を進行させていただきます。

まず、現在の第31期の委員となり、2月が最初の運営協議会でしたが、2月の運営協議会に出席できなかった方、それから4月に入ってから新たに委員になられた方々につきまして、本日も初めて顔を合わせることでありますので、私からご紹介をさせていただきます。

まずは、中野区医師会の渡邊委員です。渡邊委員は前期の第30期に引き続き、委員をお引き受けいただいております。引き続きよろしくお願いいたします。

委員

よろしくお願いいたします。渡邊です。

会長

続きまして、中野区社会福祉協議会の吉成委員です。吉成委員も前期に引き続きお引き受けいただいております。引き続きよろしくお願いいたします。

委員

吉成です。よろしくお願いいたします。

会長

続きまして、中野区薬剤師会の小川委員です。小川委員につきましては、この4月から委員をお引き受けいただいております。よろしくお願いいたします。

委員

小川です。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

以上、3名ご紹介をさせていただきました。改めてよろしくお願いいたします。

続きまして、議事録署名委員を選出したいと思いますが、恒例で会長から指名させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

会長

ありがとうございます。まずお一人は被保険者から涌井委員、もうお一人は医師会から宇野委員にお願いしたいと思っております。よろしいでしょうか。

どうぞよろしくお願いいたします。

続きまして、既にご挨拶をしていただきましたが、事務局を担当します職員の方を紹介させていただきます。

高橋区民部長

改めまして、区民部長の高橋でございます。よろしくお願いいたします。

宮脇保険医療課長

保険医療課長の宮脇です。どうぞよろしくお願いいたします。

あと、後ろのほうに係長も二人、出席させていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

それでは、審議事項であります諮問の内容について、事務局より説明をしていただきます。

宮脇保険医療課長

それでは私のほうから、資料を見ながらご説明をさせていただくという形になります。どうぞよろしくお願いいたします。着座にてご説明をさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、資料の1の用紙をお手元にご用意ください。

今回、諮問をさせていただきましたのは、産前産後期間の国民健康保険料の免除についてということですが、その制度の概要について、まずご案内をいたします。

1番のところですが、出産時の保険料負担を巡りまして、厚生年金や社会保険、それから国民年金には既に保険料の免除制度がございます。しかし、国民健康保険にはございませんでしたが、同様の配慮を求める附帯決議が国会のほうで採決をされたという経過です。全世代対応型の持続可能な社会保障制度を構築するための健康保険法の一部を改正する法律について、その

一部を施行することになりまして、その関係政令の整備に関する政令、こちらのほうが公布されたという流れです。細かいことが文字に書いてありますけれども、要は全世帯型の法律、こちらのほうが施行されまして、それに必要な準備の可能な整備政令ができましたので、それでいよいよ開始の運びとなったということです。

このことを踏まえまして、子育て世帯への負担軽減、次世代育成支援などの観点から国民健康保険において出産する被保険者にかかる産前産後期間相当分、最大で6か月分になりますけれども、こちらの保険料、内容としては均等割額と所得割額に分かれています。こちらのほうを免除していくという制度になってございます。

2番のところですが対象者です。出産する予定または出産した中野区国保の被保険者の方が対象になります。出産もしくは出産予定日が令和5年11月以降の方が対象となります。出産とは妊娠85日以上の方をいまして、死産されたり流産されたりそれから早産されているような場合にも85日以上の方であれば対象というふうになってございます。

対象者のところで、出産予定日が5年の11月以降の方というふうに書いてありますけれども、なぜ11月かというところですが、この3番のところ、対象期間をご覧ください。まず、お子さんですけれども、単体の場合お一人の妊娠の場合、出産した日の属する月の前の月から出産月の翌々月までの計4か月ということですから、出産の1か月前と、出産した月とその翌月と翌々月だから出産後の3か月、だから出産前の1か月と出産後の3か月の4か月間が対象ということになります。令和5年11月に赤ちゃん生まれましたら、11月、12月、1月というのが産後になります。だから1月からこの制度が始まると先ほど申し上げました。1月1日から制度が始まるから、11月、12月、1月の3か月の産後の、最後の1か月だけが対象になるから、なので11月から生まれたお子さんのお母さんが対象になるんですよという仕組みになってございます。

(2) 番ですけれども、多胎の場合と書いてありますが、双子以上の場合、そうすると出産日が属する月の3か月前から、出産予定月の翌々月までの計6か月ということになって、おなかの大きい期間が長いので、出産の3か月前から対象として全部で6か月を対象にしようと、そういう制度です。

4番のところですが、推定する対象者数は年間で中野区国保の加入中のお母さんが産む、産んだ赤ちゃんの数ということで、年間では300人程度を見込んでおります。

制度の開始日は先ほども申し上げた1月1日からということで、受付開始は12月からを予定しております。

6番、申請方法になりますけれども、区役所の2階の保険医療課の窓口で申請をしていただきます。もしくは、おなかも大きいので郵送でも受付ができるように整えてまいります。

なおこの制度ですけれども、申請が必要な仕組みになっております。法律がそういう仕立てになっているんですけれども、確実に子育て世帯の負担軽減につなげるために、未申請の場合においても、出産情報を基に職権により適用を行います。職権適用というのは、要は出産した情報が

中野区の国民健康保険のほうに届きますので、その情報を基にまだ申請していない人がいたら、その人には、職権、区役所の権限で、保険料を免除していきますよと、そういうことですので、漏れのないような制度設計をしているということです。

7番の周知方法のところですけども、区報やホームページ、それから区が発行している子育て支援ハンドブックなど、様々に周知をしまいたいと思っています。一番目にするタイミングが確実なのが、妊娠届のときかなというふうに思っています。「母と子の保健バッグ」というのを配っているんですけども、そこに母子手帳が入っています。そのほかいろんな妊娠中の医療の受診券とかも入っているんですが、そこに今回国民健康保険の産前産後期間の仕組みが始まりますよというチラシを同封させていただこうというふうに思っております。それから、様々な手続をする窓口におきましては、ポスターも貼っていきいたいと思っています。

また、より広く周知を行っていくため、区内の産婦人科さん、産科、助産所に対してもポスターの掲示やチラシの配布をお願いしてまいりたいと、今まだお願いはしていませんけれども、このように考えているところです。こういうことを、周知の期間を設けまして、いよいよ制度スタートという形になっていこうかなと思っております。これが制度の概要ということです。

続きまして、資料の2、お手元にご用意ください。併せてイラストのついた参考資料のですね。こちらと一緒に説明さしあげたいと思います。これは先ほど、区民部長のほうから竹原会長にお渡しした諮問書の写しになっております。竹原会長に宛てて、中野区長が諮問をしたという仕立てになってございます。

諮問事項は中野区国民健康保険条例の一部を改正する条例、これを諮問しました。諮問の内容なんですけれども、こちらが出産する被保険者の保険料を減額する額を次のとおり定めると書いてあります。

(1)、(2)、(3)、それから裏面めくりまして(4)、(5)、(6)まで減免する中身が書いてございます。これがちょっと分かりづらいというか、複雑なので、文字も見慣れないものが多いかなと思いますので、参考資料のイラストを使いながら説明を続けたいと思います。もうしばらくご辛抱でお聞きください。

まず、2の(1)、基礎賦課額の所得割額と書いてあります。併せて(2)のところに、同じく基礎賦課額に係る被保険者均等割額と書いてあります。イラストをどうぞご覧になってください。

1番左側に所得割、均等割で最後に矢印の下に年額と書いてあります。これが保険料の計算の方法ですけども、国保に加入している人はみんなこの計算でやっていきます。①と書いてあるところが、1番左の三つある四角の左側の基礎分と書いてあるところですが、これが諮問書に書いてある(1)、(2)のところなんですね。この基礎分の所得割と均等割というのが令和5年度についてはこのような計算式で保険料が決まっているということです。加入者の全員の方の旧ただし書き所得というのを掛ける7.64%します。この所得割の額、プラス均等割額ですが、これは加入者全員に均等に同じ額がかかるんですが、それが4万2,300円です。その足し算

が基礎分の保険料の年額という作りになっています。これが諮問書の2番の（１）、（２）のところの説明のダイジェスト版になっています。

2番の（１）なんですけれども読み上げますと、当該出産被保険者に係るその年度分の基礎賦課額の所得割の保険料の12分の1の額に、その出産予定日の属する月の前の月、それから翌々月から、さっきの4か月の説明です。その期間の月数を掛けて乗じて得た額ということになりますので、前1か月、後ろ3か月、全部通算すると最大で4か月ですので、4か月分免除されるという意味合いになります。保険料というのは12か月で計算していきます。ただし、賦課額は10回に分けて6月から算定するので、実質10回に分けて納付書を送らせていただいていますけれども、そのうち12分の1した額に先ほど4か月分というのを掛けていくというような流れになります。

（２）のところが、基礎賦課額にかかる均等割額というふうに書いてあります。これについても同じく12分の1の額に属する月数を掛けた額ということになりますので、最大4か月の4万2,300円、イラストの4万2,300円っていうところですね。ここの年間の均等割額が4万2,300円なので、これを12分の1してから4か月を掛ければ免除される額というからくりになってございます。これが基礎分というところで、主に医療費に対して使われる保険料ということになります。

（３）と（４）がセットになっていまして、イラストでいうところの真ん中の四角の後期高齢者支援金分というところの金額になっています。この諮問書の（３）と（４）は所得割の率が掛ける2.65%、均等割は1万4,400円。

それから（５）と（６）これが介護分というふうに書いてありますけれども、これ40歳から64歳の方のみが追加して払うようなイメージの保険料ですが、こちらについては2.10%を所得割に掛けて、均等割のほうは1万8,000円掛ける該当する人の人数というふうになっています。

ここにそれぞれ4か月の免除がかかるという仕組みとなっておりまして、これら三つを足した金額の4か月分、もしくは双子以上だったら6か月分の金額が免除されるというのが、今回の制度の仕組みになってございます。複雑な話で申し訳ございませんが、こういったご説明になります。

今回諮問する内容として、この仕組みが適切かどうかというところ、減額の仕組みが適切かどうかということですね。後ほど会長のほうにご確認いただくという形になります。

3番の改正理由です。諮問書の3番の改正理由のところですが、こちらについては保険料を減額する額を開始に伴い定めますよと。

4番目に実施時期ということで、1月1日からの施行ですよということが書いてございます。この内容を先ほど諮問差し上げたということになります。

以上が制度の説明と、それから諮問内容のご案内ということになります。なかなか複雑な、聞きなれない言葉が多く出てきたかなと思いますが、後ほどご質問などもぜひ忌憚なくお寄せいた

できればと思いますので、私からの説明は以上とさせていただきます。

会長

はい、ありがとうございました。

今日の協議会は通常と異なりまして、産前産後の被保険者の保険料の免除、これのみですので、ぜひ皆様方委員の積極的なご意見を頂戴したいと思います。

ではこの件につきまして、質疑を行います。質問等のある方は挙手をお願いいたします。

委員

所得割があるので、なかなか算出することは難しいのかもしれませんが、今のところ、推定対象者数300人程度というふうに書かれていますが、おおよそ幾らぐらいを見込んでらっしゃるんでしょう。

宮脇保険医療課長

お答えします。まず所得割のかかる人と均等割しかかからない人がいるので、おっしゃるとおりですね。金額は人それぞればらばらです。なので、それを平均した数字を申し上げますと、4か月分で考えたときに年間約3万円。3万円になります。年間というか4か月分で3万円です。だから一月でいうと、7,500円が免除される額と見込んでいます。

それを300人ということで年間で回していくというようなことになります。

委員

この多分、今のお答えだと900万ですかね。

宮脇保険医療課長

そうです。総額ですよ。

委員

はい、900万。

宮脇保険医療課長

総額は900万まではいかないと思っているのは、300人はそこまではもしかしたら生まれないかなと思っていて、おおよそ270人とか60人とか、そのくらいが実績になるかなと思うので、822万5,000円という金額が総額になりますと想定しています。

委員

これに対して国の支援というものはあるのでしょうか。

宮脇保険医療課長

この制度なのですけれども、国が2分の1、都が4分の1、区が残り4分の1を負担する。そういう仕組みになっています。

委員

4分の1、区が負担するということは一般会計から繰り入れるという形になるんですね。

宮脇保険医療課長

おっしゃるとおりです。

委員

ありがとうございます。

会長

ほかにいかがでしょうか。

委員

一応これ妊婦さんだけということですがけれども、妊婦さんは自動的に、確実には全部分かるわけではない、分かる。

宮脇保険医療課長

妊婦さんが、妊娠届を出すじゃないですか。それでその後、85日以上分娩だとどういうことが起こるかということ、区役所のほうにその情報が届く仕組みになっています。なので、その85日以上の場合の情報は全部届くから、だから漏れなく対応することができると、そういう仕組みになっています。

委員

ありがとうございます。

それと、これは中野区って書いてあるけれども、国保全部で全ての区が同じような形でやられるのかということ、途中転出とかそういった場合も確実にあると思うので、そこについてはどうなのでしょうか。

宮脇保険医療課長

まず、最初の中野区以外の国民健康保険でやるかどうかですけれども、全国の国民健康保険あまねく、同じ制度でやる。独自でオリジナルで上乗せをすることかということは、今私のほうには聞いてございません。

それから、転出だとか転入という方が当然、期間中に出てくると思います。そうした場合に、その属する月ですね、保険料ってその期間の月前に居た人に賦課されていくわけですがけれども、中野区に居る期間の保険料に対して免除していくから、例えばお隣の杉並区にお引っ越しされたといったら、その情報を中野区から杉並区のほうに伝える仕組みを持っています。

なので、途中で杉並行っちゃったよという情報が渡るから、杉並はその情報をボタンタッチして残りのまだ免除しきれていない月の分を免除すると、そういう作りになってございます。

委員

ありがとうございます。

最後にもう一点だけ、これはあまり関係ないのですが、中野区の一年間の出生数ってお幾つぐらいですか。

宮脇保険医療課長

今手元の資料を出しますね。中野区の一年間の出生数ですが、先に国保のほうなんですけど、令和4年度244人、3年度265人でした。それで中野区全体だと約2,000人ちょい超える感じです。

委員

社会保険のほうに加入されている方がほとんどだと思うのですけれど、約1割程度という、そんな感じなのですかね。ありがとうございました。

会長

よろしいですか。

委員

はい、ありがとうございます。

会長

今委員のほうからも、最初にお話がありましたけれど、男性の育児支援ということで育児休業、そういった制度がお父さんも含まれていますけれども、この今回の免除の対象者はお母さんのみということですね。

ほかに何かご質問いかがですかね。何かございませんか。

この費用につきましては、国と都と区が一般会計から特会のほうに繰り出すということで、国民健康保険の被保険者の保険料には影響がないという仕組みになっています。

宮脇保険医療課長

これによって値上げするとかそういうことではないといった感じです。

会長

ただ、それだけ区の一般会計の比率が増えるということになっている。

宮脇保険医療課長

はい、4分の1ですが増えてしまいます。

会長

はい、そういう構造です。

何かご意見、ご質問でも構いませんので、ではご質問がないようですので、この件の質疑を終わらせていただいてもよろしいでしょうか。

(異議なし)

よろしいですか。

では、ここで諮問事項に対してお諮りいたします。

原案を適当と認めることに賛成の方は挙手を願います。

(挙手全員)

会長

全員賛成ということですので、原案を適当と認めることに決定いたします。

なお、諮問についての答申は、会長において調整して提出したいと思います。

これで、本日本日予定された議題は終了しましたが、ほかに事務局から連絡事項等ありますか。

宮脇保険医療課長

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。またご意見、ご質問等

頂戴いたしました。参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

今回については、新たに開始となる産前産後の保険料の制度について、ご審議いただいたということですが、また2月に、主に次の年度の保険料のことについてお集まりをいただきご審議いただくことになります。通常ですと、年に一度ですね。この2月のタイミングでもってお集まりいただくというのが、国保運営協議会のいつものパターンですが、こちらについては今回、産前産後の条例が改正されるということでお集まりいただいたので、今年度何もなければ2回という形になります。

2月の日程については、改めてご連絡をいたしますので、どうぞその節はよろしくご参集いただきたいと思います。お願い申し上げます。

会長

はい、ありがとうございました。

ほかに皆様から何かございますでしょうか。

ないようですので、本日の会議はこれをもって散会いたします。

お忙しいところ、お集まりいただきまして、誠にありがとうございました。